



令和4年度 推進状況報告書



令和5年6月

横浜市緑区役所 横浜市緑区社会福祉協議会
緑区地域ケアプラザ

第4期緑区地域福祉保健計画 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 推進状況報告書

活用の仕方



第4期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、各地区の特徴を踏まえた「地区別計画」、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し取り組む「区域計画」で構成されています。

地域の課題解決に向け、区民・事業者・行政が協働して計画を推進していますが、その概要を年度毎に「推進状況報告書」としてまとめ、冊子を発行しています。

1 計画の概要を知りたい！

- 「第1章 計画の概要」をご参照ください
緑区の地域福祉保健計画の経過や計画の内容、特徴などを紹介しています。

2 自分の住んでいる地域の取組を知りたい！

- 「第2章 地区別計画」をご参照ください
区内11地区それぞれの取組などをまとめています。

3 緑区全体の取組や推進状況について知りたい！

- 「第3章 区域計画」をご参照ください
「地区別計画」における各地区共通の課題に対応する「重点項目A」と、区域での課題に対応する「重点取組B」の主な取組などを紹介しています。

4 他にどんな情報が載っていますか？

- 「参考」ページに地域ケアプラザの一覧を載せています。
福祉や保健に関することや、地域活動に関する情報提供などをして
いる身近な施設としてご利用ください。

令和4年度 推進状況報告書

- 目次 -



第1章 計画の概要

1	地域福祉保健計画とは	1
2	緑区地域福祉保健計画	1
3	第4期計画の基本理念と基本目標	3

第2章 地区別計画

1	「地区別計画」とは	5
2	令和4年度地区別計画の推進について	7
	東本郷地区	9
	鴨居地区	11
	竹山地区	13
	白山地区	15
	新治中部地区	17
	三保地区	19
	山下地区	21
	新治西部地区	23
	十日市場団地地区	25
	霧が丘地区	27
	長津田地区	29

第3章 区域計画

	「区域計画」の推進について	31
	各重点項目の振返り	33
	参考指標について	37
●	＜参考＞緑区内の地域ケアプラザ	39

(表紙中面) 推進状況報告書 活用の仕方
(裏表紙中面) 編集・発行

第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画（以下、「市計画」という。）と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画（以下、「区計画」という。）があります。

また、地域福祉の推進を目指し、地域住民・福祉保健等の関係団体や事業者等が地域で主体的に進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画があります。

それぞれの計画は相互に補完・連携し、役割分担をしていくものであることから、横浜市では、わかりやすい計画となるよう策定のプロセスを共有し、整合性のとれた一つの計画として一体的に策定しています。これにより、行政や市民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所など、地域に関わる人々にとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となっています。

緑区でも、第1期から緑区地域福祉保健計画と緑区地域福祉活動計画を一体的に策定しています。

2 緑区の地域福祉保健計画

(1) 第1期計画（平成18～22年度）

緑区では、平成16年度策定の市計画を受け、「みどりのわ・ささえ愛プラン」の第1期計画を平成18年1月に策定しました。

策定にあたっては、平成16年度からの2年間で、11地区連合自治会単位で開催した地区別意見交換会や分野別・団体別インタビュー、区民アンケートを実施し、そこで出された意見を、「つながり」「人材・担い手」「機会・場」「情報」「安心・安全・健康」の5つのキーワードに分類し、各団体の代表者や公募委員、学識経験者で構成する策定委員会で検討を行いました。

それを踏まえて、計画の基本理念と、上記のキーワードを核とした5つの基本目標等で構成する、第1期計画を策定しました。



●第1期計画の基本理念と基本目標

基本理念 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして

～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～

基本目標1 地域での「つながり」を大切にするまちづくり（キーワード：つながり）

基本目標2 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）

基本目標3 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）

基本目標4 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）

基本目標5 「安心・安全・健康」のまちづくり（キーワード：安心・安全・健康）

(2) 第2期計画（平成23～27年度）

第1期計画の振り返り等を踏まえ、第2期計画は、区内11地区の実情や地域の特色を生かし、区民と協働で策定する「地区別計画」と、区役所（以下、「区」という。）・区社会福祉協議会（以下、「区社協」という。）・地域ケアプラザ等が地域と協働し、緑区全体で取り組む「区計画」とで構成することとしました。

この第2期計画は、日常生活に関連した課題などに対する地域の取組計画をまとめた「地区別計画」と、地域を越える課題や地域だけでは対応しにくい課題、区全体で共通の課題、地域の取組を支援する計画などをまとめた「区計画」を互いに連動して進めていました。



● 第2期計画の基本理念と基本目標 ※下線部分について第1期計画より変更

基本理念 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして
 ～一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり～

基本目標1 地域での「つながり」のあるまちづくり（キーワード：つながり）

基本目標2 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）

基本目標3 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）

基本目標4 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）

基本目標5 「安全・安心・健康」のまちづくり（キーワード：安全・安心・健康）

(3) 第3期計画（平成28～令和2年度）

第2期計画の基本目標が「地区別計画」と「区計画」の両者にかかるものとして策定されたことを引き継いで、第3期計画においては、計画全般を「全体計画」、区計画を「区域計画」とし、「地区別計画」も含め構成の見直しを行いました。

また、第3期計画をより実践的な計画とすることを目指し、「区民アンケート」や「分野別・団体別グループインタビュー」を踏まえて、重点的な課題を抽出し、そのテーマに沿った「重点テーマ」(※)等を設けました。



● 第3期計画の基本理念と基本目標

基本理念 誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして
 ～一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり～

基本目標1 地域での「つながり」のあるまちづくり（キーワード：つながり）

基本目標2 「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（キーワード：人材・担い手）

基本目標3 みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり（キーワード：機会・場）

基本目標4 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり（キーワード：情報）

基本目標5 「安全・安心・健康」のまちづくり（キーワード：安全・安心・健康）

(※) 第3期計画 区域計画「重点テーマ」

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ① 日常的な見守り体制づくりに関する取組 | ② 認知症に関する取組 |
| ③ 障がい児・者に関する取組 | ④ 子ども・子育てに関する取組 |
| ⑤ 災害時に支援が必要な方への取組 | ⑥ 健康づくりに関する取組 |

(4) 第4期計画（令和3年度～令和7年度）

第3期計画では、「区域計画」については、分野別・対象者別に設定した6つの「重点テーマ」をもとに構成し推進してきました。第4期計画については、「区域計画」を「分野別・対象者別の構成」ではなく、「分野横断的な構成」とします。

また、第4期計画が目指すもの（目標）を明確化するため、「目標」と名の付くものについては基本理念に併記する「全体目標（目指す姿）」のみとすることで体系的に簡明化します。



● 第4期計画の基本理念と基本目標

基本理念

誰もが安心して暮らし続けられる 緑区をめざして

全体目標（目指す姿）

一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり

連携・協働
情報共有
課題抽出

地区別計画

実施主体 ◆ 地域

各地区の特性に合わせた
重点取組及び具体的な活動

- 地区の現況
- 第3期計画の振り返り
- 目指したいまちのすがた
- 重点取組及び具体的な活動

11地区

東本郷地区、鴨居地区、竹山地区、
白山地区、新治中部地区、
三保地区、山下地区、新治西部地区、
十日市場団地地区、霧が丘地区、
長津田地区

区域計画

実施主体 ◆ 区・区社協・地域ケアプラザ

地区別計画を支える取組
（重点項目A）

- 重点項目A-1**
地域活動の担い手・人材の確保及び育成
- 重点項目A-2**
地域活動団体の運営支援
- 重点項目A-3**
地域の活動及び交流の機会・場づくり
- 重点項目A-4**
地域活動の情報伝達の工夫
- 重点項目A-5**
地域における見守り体制の充実
- 重点項目A-6**
多様な主体と連携・協働した地域活動支援

区域全体での取組
（重点項目B）

- 重点項目B-1**
データを活用した施策推進
- 重点項目B-2**
課題解決に取り組む推進体制づくり
- 重点項目B-3**
様々な背景を越えた住民相互理解の風土づくり
- 重点項目B-4**
身近な地域で支援が届く仕組みづくり
- 重点項目B-5**
多様な主体と連携・協働した施策展開

推進の視点

- 【視点1】 地域福祉保健を推進するために必要な意識の醸成・推進体制づくり
- 【視点2】 支援が必要な人を発見・支えるとともに、困った時には自ら発信することができる仕組みづくり
- 【視点3】 企業・社会福祉法人・NPO法人等、多様な主体との連携・協働による地域福祉保健の推進

(ア) 基本理念及びその考え方

基本理念「誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして」は、全体目標（目指す姿）「一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり」とともに計画全体の総合的な指針として、第3期計画のものを継承することとしました。

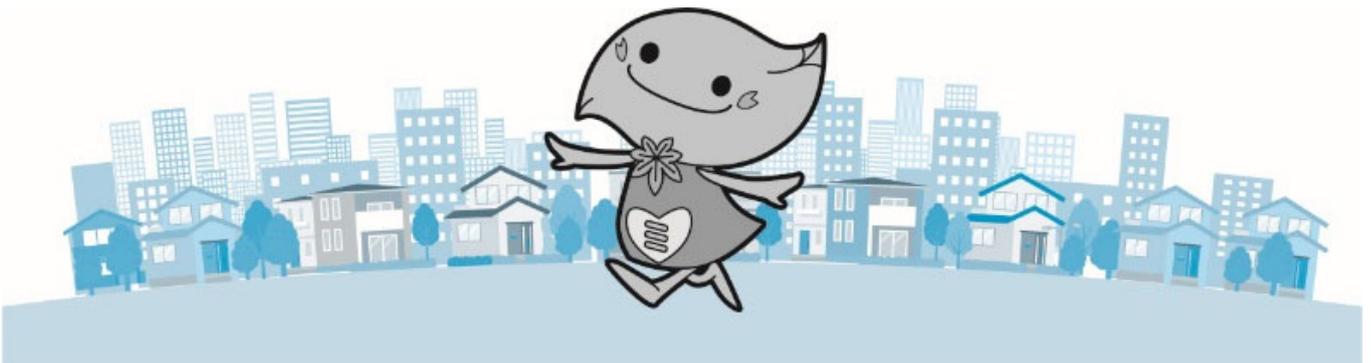
区民の誰もが、年齢を重ねても、障害があっても、身近な地域で安心して暮らし続けられるまちづくりの実現を目指していくことが必要です。区民一人ひとりが、自分の持つ力を十分に発揮し、心豊かに充実した生活を送ることができるよう、区民、団体、事業者等が協働で、共に支え合い、区民同士のつながりのあるまちづくりを進めていきます。

(イ) 地区別計画と区域計画の関連性

第3期計画と同様に、基本理念の実現を目指して、「地区別計画」及び「区域計画」を推進します。「地区別計画」については、各地区の特性に合わせた重点取組や具体的な活動を掲載しています。

一方、「区域計画」の重点項目については、各地区共通の課題解決のための重点項目としての「地区別計画を支える取組」と、区域の課題解決のための重点項目としての「区域全体での取組」の2つの性格のものを掲載しています。

なお、第4期計画では「地区別計画」と「区域計画」の関わりをより強調することにより、各地区共通で挙げられている課題の解決のために「区域計画」が支援することを明確化する構成としました。



第2章 地区別計画

1 「地区別計画」とは

区内の11 連合自治会・地区社協単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が中心となって、各地区の特徴を生かした地区別計画を策定しています。

各地区の「目指したいまちのすがた・スローガン」の実現を目指し、地区別委員会が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進に係る各種の情報の共有・意見交換や振り返りを行っています。



④ 白山地区

白山の自助・共助・近助による安全・安心な
コミュニティづくり～白山の絆で団結しよう！～

- 重点
取組 **1** 〈福祉〉
孤立化を防ぎ、つながりを広げよう
- 重点
取組 **2** 〈子どもの健全育成〉
子育てしやすい地域づくりをめざそう
- 重点
取組 **3** 〈防犯〉
地域の防犯力を高めよう
- 重点
取組 **4** 〈防災〉
地域の防災力を育もう
- 重点
取組 **5** 〈環境〉
ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう

⑥ 三保地区

ゆるやかな見守りや支え合いのできる
仲間づくり

- 重点
取組 **1** 地域でのつながりを大切にし、活動を活発
にしたい
- 重点
取組 **2** 活動・交流を通じた見守り・支え合い

⑧ 新治西部地区

あいさつを元気に交わそう！
笑顔あふれ 集い楽しむ 新治西部

- 重点
取組 **1** 地域の中で顔の見える関係を築き、交流を
深めていきます
- 重点
取組 **2** 地域情報を多くの住民に届けられるように
していきます
- 重点
取組 **3** 次世代に活動をつなげられるよう取り組みます

⑩ 霧が丘地区

防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘

- 重点
取組 **1** 活動できる機会・場を通してつながりを
大切にすまちづくり
- 重点
取組 **2** 安全・安心・健康のまちづくり

⑤ 新治中部地区

次世代まで安心して笑顔で
暮らし続けられるまち

- 重点
取組 **1** 防犯・防災に強い安全・安心のまちづくり
- 重点
取組 **2** 住民同士の顔の見える関係が築かれた
まちづくり
- 重点
取組 **3** 次世代につながるまちづくり

⑦ 山下地区

地域のつながりや支え合いのある誰もが
元気で暮らし続けられる街をめざして

- 重点
取組 **1** 住民相互の見守り、見守られる支え合いの
まちづくり
- 重点
取組 **2** 地域での「つながり」を大切に、「健康」で元気に
暮らし続けられるまちづくり
- 重点
取組 **3** 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

⑨ 十日市場団地地区

誰もが「住んで良かった」「住み続けたい」まち
十日市場団地

- 重点
取組 **1** 地域での「見守り」を進め、支え合える地域に
していきます
- 重点
取組 **2** 地域活動を充実させ、地域の中で「つながり」を
つくっていきます
- 重点
取組 **3** 地域の情報の発信に取り組みます

⑪ 長津田地区

向こう三軒両隣、様々な世代がおたがいさまで
つながる長津田のまち、笑顔と元気は地域の
宝物、いいよね長津田！希望のまちへ！

- 重点
取組 **1** おたがいさまの輪を大切にした、地域の身近な
ところでのつながりづくり
- 重点
取組 **2** 情報の受発信・伝達の工夫
- 重点
取組 **3** 次世代を見据えた住民同士の交流

2 令和4年度 地区別計画の推進について

(1) 地区別計画推進策定員会開催状況

東本郷地区

- 第1回 令和4年6月18日(土)
テーマ:3つの専門委員会の具体的な取組について
 - 第2回 令和4年12月9日(金)
テーマ:3つの専門委員会からの報告、「ゆるやかな見守り」についてグループワーク
- <委員長コメント>
普段からのつながりがベースにあると感じた。コロナにより薄れた地域のつながりを取り戻すべく取組を進めていきたい。

鴨居地区

- 第1回 令和4年8月6日(土)
テーマ:「鴨居チョイボラ」の拡大・拡充について意見交換
 - 第2回 令和4年12月10日(土)
テーマ:「鴨居チョイボラ」の拡大・拡充についてアンケート結果報告、意見交換
- <委員長コメント>
チョイボラの拡大発展の望みが見えてきた。これからも意見交換しながら無理しないで進めていきたい。

竹山地区

- 第1回 令和4年7月15日(金)
テーマ:学習支援、移動販売、各団体の活動状況について意見交換
 - 第2回 令和4年12月9日(金)
テーマ:「ささえ愛カード」の取組について、学習支援・移動販売の取組報告、意見交換
- <委員長コメント>
竹山地区の高齢化率が50%に達しようとしている。住民に住みやすい街づくりを先進的に行い、次世代につなげていきたい。

白山地区

- 第1回 令和4年7月23日(土)
テーマ:「重点取組1 孤立化を 방지、つながりを広げよう」について意見交換
 - 第2回 令和4年11月26日(土)
テーマ:重点取組1について、各団体・自治会で、できること・やりたいことについての意見交換
- <委員長コメント>
委員会が出された意見を踏まえ、孤立化を防止、つながりを広げられるよう今後も話し合いながら取組を進めていきたい。

新治中部地区

- 第1回 令和4年7月16日(土)
テーマ:「防犯・防災キャッチフレーズ」について意見交換
 - 第2回 令和5年2月18日(土)
テーマ:「地域と学校、家庭で考える防災活動」について意見交換
- <委員長コメント>
自治会の行事を手段とし、いざ災害があった時に協力し合う体制を作っていきたい。

三保地区

- 第1回 令和4年8月20日(土)
テーマ:「私にもできる ちょっとしたささえあい」について意見交換
 - 第2回 令和5年2月4日(土)
テーマ:「ゆるやかな見守りのためにできること」について各団体からの報告・意見交換
- <委員長コメント>
地域の皆さんを支えていくために、地域の組織の活動としてどういうことが必要なのかなど、知恵を出し合っていきたい。

山下地区

- 第1回 令和4年9月22日(木)
テーマ: 災害時の避難支援の共助システムの検討、意見交換
 - 第2回 令和5年1月19日(木)
テーマ: 災害時の避難支援の共助システムの検討・各種団体の活動を通じたつながりづくりについて活動の共有
- <委員長コメント>
活動に未参加の方にも皆で声掛けをすることで、地域にいろいろなことが幅広く広がっていくようにしたい。

新治西部地区

- 第1回 令和4年9月2日(金)
テーマ: 「みんなでわくわく街歩き」について・「情報発信・共有方法について意見交換
 - 第2回 令和5年2月14日(火)
テーマ: 「みんなでわくわく街歩き」報告・コロナ禍における活動の工夫、行事等の実施・再開に向けて意見交換
- <委員長コメント>
新治西部に暮らす誰にでも計画が身近なものになるよう、協力して進めていきたい。

十日市場団地地区

- 第1回 令和4年8月26日(金)
テーマ: 「各団体でできること・他の団体と協力してできること」について意見交換
 - 第2回 令和5年2月3日(金)
テーマ: 参加団体の紹介・「各団体の活動について知らせる方法について」意見交換
- <委員長コメント>
各団体が、お互いのことを知り、話し合う機会を増やしていくことで、各団体の横のつながりを深め、協力して、よりよいまちを作っていきたい。

霧が丘地区

- 第1回 令和4年6月25日(土)
テーマ: 防犯パトロールと見守り活動について意見交換
 - 第2回 令和4年12月10日(土)
テーマ: 「つながりづくりの取組の今後について」見守りネットワーク広報紙についての意見交換
- <委員長コメント>
こういうことをやれば「街がよくなる」、「近所仲良くなる」という積極的な意見をいただけるとよい。

長津田地区

- 第1回 令和4年9月10日(土)
テーマ: 「多世代の交流・つながりづくり」について意見交換
 - 第2回 令和5年2月18日(土)
テーマ: 「若い世代の活躍・活動の場づくり」について意見交換
- <委員長コメント>
これからは、若い人をいかに取り込んでいくかが大切。次世代にこの地域に住んでいて良かったと思ってもらえるようにしていきたい。



東本郷地区

<地区> 東本郷1～6丁目、東本郷町

◆活動の概要◆ ～テーマ別の「専門委員会」を設け、
地域の各団体が連携して、課題解決を目指した取組～

東本郷地区では、「地域が息づき、みんなが安心・安全を感じ、住んでよかったと思えるまち 東本郷」を目指して様々な取組を進めています。

今年度は、コロナ禍でもつながりを絶やさず、世代を超えて交流するために、「ひがほん郷まつり」や「どんど焼き」等のイベントも再開しました。

また、「高齢者」、「子ども・子育て」、「健康づくり」については、テーマ別の専門委員会を開催し、地域の課題解決に向けた検討や取組を行っています。「専門委員会」という場があることで、自治会をはじめとした各団体等の強みを活かしながら、連携・協働して地域全体で取組が進められています。

キーワード

地区内の
連携

見守り・
支え合い

推進組織

東本郷地区の取組紹介

「地域が息づき、みんなが安心・安全を感じ、住んでよかったと思えるまち 東本郷」を目指し次のような取組を推進しています

《重点取組1》

安心・安全な地域でつながり、支え合い、一緒に楽しみを共有する

「地域の人々の繋がりづくりのために、計画行事はコロナを理由に中止せず対策してできる限り実施する」を基本方針に推進しました。結果今年度は、ひがほん郷まつり、地域交流会（区・鴨居連合・東本郷地区連合）・東本郷賀詞交歓会・どんど焼きを実施しました。残念ながら連合夏祭りと体育祭の実施は急激な感染拡大時期だったため見合わせました。



◀どんど焼き

<第10回「ひがほん郷まつり」3年ぶりに開催（11/6（日）東本郷小学校校庭）>

コロナ対策として飲食無し、規模の縮小、短時間（2時間）での開催となりました。

各ブースでは、団体の活動紹介、ゲームコーナー、作品の展示や販売、体育館では「ひがほん音楽会2022」を実施、1,500人の方の来場があり、盛況に終わりました。



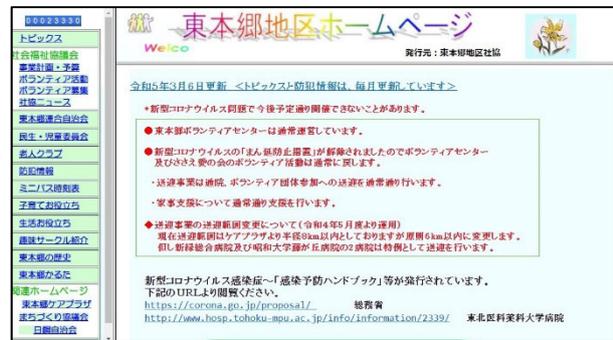
▲ひがほん郷まつり

《重点取組2》地域の情報を誰もが入手しやすくする

従来の回覧・掲示板に加え、東本郷地区社会福祉協議会による「社協ニュース」のタイムリーな発行とホームページの充実を図りました。



社協ニュース▲



▲地区社協のホームページ

「東本郷地区社協」で検索すると、見ることができます！

《重点取組3》

テーマ別の課題解決に向けて3つの専門委員会が連携して取り組む

①健康づくり委員会

年6回委員会を開催し、地区内の健康づくりに関わる取組について、検討しました。その結果に基づき、次の取組を行いました。

- ・ひがほん郷まつりにて健康チェックを実施
- ・広報紙「東本郷健康づくり委員会通信」を発行
各自治会にて回覧、掲示板への掲示
- ・健康講座「いつまでも元気でいる秘訣」を開催
(講師：緑区医師会在宅医療相談室)
- ・マスクの配布などを行い、地区内の各公園等で行われているラジオ体操の実施を応援



▲ラジオ体操

②高齢者支援委員会

イオンフードスタイル鴨居店協力のもと、移動販売を東本郷地区3か所で開始しました。

移動販売は高齢者の見守り活動の一環となっています。定期的に顔をあわせること、声を掛け合うことによって、地域全体で高齢者の見守りをおこなうことができます。また、旅行や入院等で長期不在の際は、事前に近隣への声掛けも重要です。高齢者の生活を見守る事だけでなく、近隣の皆さんで助け合いのできる地域をめざしています。



▲移動販売

③子ども子育て支援委員会

核家族少子化が加速し、ひとつの家庭とひとり子どもに関わる人数が減っています。

社会の最小単位である家庭が安定すれば、それが積み重なった地域は揺るぎないものになります。だから子ども子育て問題は地域社会ひとりひとりが考えないといけないと思います。委員会では朝食支援などを通じて地域のなかに、子どもたちや子育て家庭の居場所を見つけて作っていく活動をしています。



▲朝ごはんを食べる会

鴨居地区

<地区> 鴨居1～7丁目、鴨居町

◆活動の概要◆

～「地域で支え合い、つながりを大切にすまち」を目指した活動～

高齢者を地域で支えるためのチョット手助けボランティア「鴨居チョイボラ」活動は、「業者に頼むほどではないし、かといって無償では頼みにくい」そんな方々を住民相互で助ける仕組みです。

平成28年から、住民アンケートを踏まえ、チョイボラ登録者(サポーター)の増やし方、サービスの内容、相談からボランティア活動までの流れ、利用料など、試行実施に向けた具体的な方法について地区別計画推進委員会ほか様々な場で話し合い1年間の試行期間を経て、令和元年度から本格的に始まった取組です。今年度はニーズを把握するために再度全戸アンケートを実施したことにより、若い世代のニーズ把握ができたり、若い方のサポーター登録につなげることができました。時代の変化や利用者のニーズが変化する中、多くの意見を取り入れながら活動内容の「拡大・拡充」に向けた取組です。

キーワード

見守り・
支え合い

助け合い
ボランティア

推進組織



鴨居地区の取組紹介

鴨居のチョイとしたボランティア
『鴨居チョイボラ』

活動内容

2019年、高齢世帯を対象に「草むしり」「枝切り」「電球交換」の3つに項目を絞ってチョイとしたボランティア『鴨居チョイボラ』をスタートしました。今年度は取組の拡大拡充にむけて話し合いを行いました。

コロナ禍でも

コロナ禍で活動ができない時期もありましたが、個別で対応したケースもありました。活動再開後、チョイボラではどんなことを行っているのか情報発信をしてはどうかとの意見があり、連合自治会ホームページへの掲載や、継続的な情報発信についての話し合いの場が持たれました。

これまでの依頼内容等を振り返り、今後は取組の拡大拡充に向けて、まずは「どんなことをしてもらいたいのか」の声を集めることになりました。

お困りごとのご相談は…「鴨居チョイボラ」まで
高齢の方で、草むしり・枝切り・電球交換等
チョットしたお手伝いをご希望の方は
お気軽にご相談ください！
○相談:無料 ○活動費:基本1時間500円/1人
☎045-935-1073
(受付時間 月曜日～土曜日/9:00～16:30)
後日、コーディネータから詳細確認の為
電話させていただきます。
鴨居連合自治会

介護保険等の相談は…「鴨居地域ケアプラザ」
☎045-930-1122
月～土9:00～21:00・日祝9:00～17:00
休館日: 第4月曜日・年末年始

力を入れたこと

令和4年9月「手伝ってほしいことアンケート」を実施しました。

703世帯から回答があり、291世帯から要望がありました。

また、これまでの活動に対して感謝の言葉や、今後への期待の言葉も多く寄せられました。

手伝ってほしいこと（上位21項目）					
1	草むしり	8	通院介助	15	子どものサポート
2	木の繁茂した枝切り	9	裾上げ・衣類の整理	16	散歩の付き添い
3	スマホ・パソコンの操作	10	植木鉢の水やり	17	害虫駆除
4	家具などの移動	11	部屋の掃除	18	イベントに連れて行ってほしい
5	買い物	12	自分もしくは家族の見守り	19	料理作りの手伝い
6	電球取り換え等簡単な作業	13	お風呂やトイレの清掃	20	食事の付き合い
7	ゴミ出し	14	話し相手	21	カーテンの取外し・取付

以前蛍光灯の取換を2度ほどお願いした。
すぐに来てくださりとても助かりました。



チョイボラ制度は非常に意義のある
素晴らしい制度であると思うので、
長く続けてほしい。

アンケート結果を受けて、11月にはサポーター募集を実施しました。

若い方からの申し込みもあり、102名の方が登録を希望されました。

活動中

新しいサポーターも増えたので、改めて「サポーターの心得と規約」
についての勉強会を開催しました。またすでに活動している団体と、
サポーターとのコラボ企画も検討中です。

皆さんの意見を取り入れながら今後は高齢者に限定せず、子育て世代の
悩みにも耳を傾けていきます。手助けを希望される方の中には、得意分
野を持った方もおります。それらの力をサポーターとして活用できれば
自身の励みにもなりますし裾も広がっていきます。

鴨居地区全体で、「あなたが主役 地域が舞台 人情あふれる街・鴨居」
を目指します。

依頼



鴨居会館



コーディネーター



サポーター



鴨居チョイボラの流れ



「鴨居チョイボラ・サポーター研修会」の様子

竹山地区

<地区> 竹山1～4丁目

◆活動の概要◆ ～「次世代まで安心して暮らし続けることができるまち」を目指した活動～

竹山地区では、高齢化率44.5%(令和4年9月30日現在)と高齢化が進むなか、「安全に安心して仲良く暮らせる街」を目指し新たな取組みを始めました。地域の宝である子どもたちのために、様々な団体が協力して始めた「竹山宿題応援団」は、子どもたちが学生をはじめとするボランティアさんと交流する良い機会にもなっています。「買い物に困っている」という住民の声に対し、地区全体で話し合いを行い「移動販売」がスタートしています。コロナ禍で交流が途絶えていたなか、移動販売の場所が地域住民の交流の場にもなっているなど、住民皆が仲良く暮らせる街の取組です。

キーワード

地区内の
連携

顔の
つながり

多世代の
つながり

交流の場

竹山地区の取組紹介



竹山宿題応援団

竹山小学校3年生を対象に学習支援を行っています。
学校行事を考慮しながら木曜日に開催しています。

○きっかけは…

令和3年度の地区別計画推進策定委員会の中で、校長先生から「子どもたちの学習支援に、地域の方に協力をお願いしたい」と相談があり「子どもたちのためなら、みんなで一緒に考えよう!」と連合自治会、地区社協、民児協、学校等と竹山学習支援運営委員会を立ち上げました。

またボランティアとして神奈川大学の協力も得られるようになりました。



○活動が始まって…

運営委員会や神奈川大学の学生らメンバーが一丸となって取り組んでいます。コロナ禍のため、感染対策にも気を付けています。最初はボランティアも小学生も緊張している様子でしたが、少しずつ慣れてきて、和気あいあい、元気よく活動しています。

○今後は…

時間割の関係で教えられるのは3年生の1年間のみ。進級しても、そこで生まれた縁が継続できるような居場所づくりを考えていきたい。竹山の子がみんなに見守られながら成長していることを感じてほしい。



竹山学習支援運営委員会 青木会長

移動販売

毎週金曜日、近隣のスーパーの移動販売車が竹山地区 5 か所に来ています。

○きっかけは…

移動販売の話があったとき、今必要としている人は多くないかもしれないが、竹山地区は高齢化も進んでおり5年、10年先を考えると必ず必要になる！と思い希望しました。

○活動が始まって…

民生委員の方が見守りの場として活用しています。雨風で足元が悪いときは、荷物運びを手伝ってくれる方もいます。自治会によっては、日除けや、雨除けになるパラソルを購入したり、館内放送をかけて周知をしたりしています。

○今後は…

ヘルパーさんと一緒に買い物に来ていた方が、1人でも来られるようになったという話がありました。荷物を運ぶボランティアさんがもっと必要になるかもしれません。



竹山連合自治会 吉川会長

交流の場も開催

おしゃべりを楽しむ交流の場も開催しました。



「元気会」

竹山小コミュニティハウスで開催

コロナ禍のため活動ができなくなった食事会のかわりに誕生した「元気会」体操やビンゴ大会で盛り上がり、クリスマスにはギターの演奏を楽しんだり、皆さん楽しいひと時を過ごしました。



「カフェぶらり」

ふれあいさろん竹多久で開催

コロナ禍はオンラインでの開催だった「カフェぶらり」も、今年是对面で行うことができました。初めて参加する方も多く、メンバーも増え、毎回賑やかに会話を楽しんでいます。

トピックス「竹山スマホ教室」

ふれあいさろん竹多久で、毎月第1、3金曜日の午前、神奈川大学の学生が中心となりスマホの操作を教えています。学生たちが、参加者の聞きたいことに答えるという個別対応の形式で行っています。外に出て人と交流するので、皆さん着飾って参加しています。学生たちと触れ合うことで参加者の顔がどんどん明るくなっていきます。



白山地区

<地区> 白山1～4丁目

◆活動の概要◆ ～「孤立化を防ぎ、つながりを広げよう」を目指した活動～

白山地区では、5つの重点取組を相互に関連させながら、住民同士のつながり合いや、地域の中でのゆるやかな見守りネットワークづくりに取り組んでいます。

今年度白山地区では、重点取組の1つ「孤立化を防ぎ、つながりを広げよう」を目指し、『孤立させない為に』私たちは何ができるのか議論を進め、様々な取組を行いました。ハマボノ事業を活用した住民ニーズ調査や、コロナ禍で様々なイベントが中止になるなか、感染対策を工夫し「孤立しない」「つながりを絶やさない」という思いで取り組んだ『お！サンポ会』『農業体験』等、毎月活動の様子を報告し話し合いの機会を設けながら「孤立を防ぎ、つながりを広げる」ことを目指した活動です。

キーワード

多世代の
つながり

交流の場

ニーズ調査

見守り

白山地区の取組紹介

地域住民のニーズ調査

コロナ禍に於いて、どのように地域活動を進めてよいかを話し合いながらの1年でした。そんな中で地域住民が地域活動にどんな事を望んでいるかを、連合自治会・地区社会福祉協議会と協力し、ハマボノ事業を活用しながら住民のニーズ調査を行い今後の活動の参考にすることとしました。



ハマボノ事業とは…

働き盛り世代からシニア世代まで、仕事で培った様々な経験・スキルをお持ちのボランティアが、地域活動団体の活動を応援する取組です。

あなたのこえを
聞きたいのです

日々がしあわせと感じられる
まちづくりのために

このアンケートは12月20日までにお願いいたします

インターネットアンケートをご希望の方は
右のQRコードから作成ください

白山地区社会福祉協議会



アンケート結果 2/12



アンケート結果は、
白山連合自治会の
ホームページ
で公開されています。

「孤立化を防ぎ、つながりを広げる」ためにできること…

スポーツ交流会

10月9日(日)鴨居中学校校庭にて「グランド・ゴルフ大会」を開催しました。ベテランゴルファーのレベルの高いプレーに若手(?)は歯が立ちません。“スポーツ”は年齢や性別、異なる自治会の方たちと交流が図れとても有意義だと再認識しました。



農業体験

白山地区社協では事業の一環として「農業体験を通じて居場所づくり」に取り組んでおります。場所は白山高校バス停前のシオザワファームです。ジャガイモ、さつま芋、里芋、ミニトマトなどの苗の植え付けから収穫までの作業です。

また、地産地消の一環として「こども食堂」への寄付も行っております。皆さんどうぞお気軽にご参加ください。



防犯パトロール

<合同防犯パトロール>

白山連合自治会と白山青少年指導員合同で、月1回夜間パトロールを実施しています。



<白山緑自治会防犯パトロール>

コロナ禍で中止していた防犯パトロールをR4年3月から再開。つながりを広げるため「声掛け、挨拶の励行」を実施しています。年間139日実施 1日平均24人参加 平均年齢80.5歳! 延べ3,398人参加

<白山自治会防犯パトロール>

毎週火曜日14:30から、下校時の見守りを兼ねてパトロールを行っています。

防災訓練

毎年、夏冬の2回、防災訓練を実施し発災時の対応力を向上させています。11月6日(日)に開催した防災訓練では、鴨居中学校防災拠点において、自治会のメンバーのみならず鴨居中学校の生徒さんにもご協力いただき、発災を想定した拠点開設訓練を実施しました。

この訓練で得た情報を来年度にフィードバックし更に対応力の向上を図ります。



お!サンポ会

コロナ禍の運動不足解消と健康増進、地元白山の景色をゆっくり楽しみながら無理なくお散歩。四季折々の草花や新鮮な空気を感じながらゆるり心穏やか楽しい時を過ごしませんか。



コガモひろば&白山 HAPPY MAMA'S

コロナ禍で行動範囲が制限される中、少しでも多くの親子が集える場所、ホッとできる場所として開催してきました。たくさんのママたち子どもたちの笑顔を見ることができました。



書初め・川柳大会

コロナになって3年目、みんなの想いはそろそろコロナとオサラバしたいが、密な活動はまだ怖い。そんな中、三密にならないイベント企画として書初め・川柳大会を実施しました。

書初めと川柳併せて176作品の応募があり、各自治会長賞など優秀な51作品を選出し、白山連合自治会のホームページに掲載いたしました。



<https://hakusan-saruyama.com/index.html>

新治中部地区

<地区>

台村町、森の台、寺山町、中山1～6丁目、上山1～3丁目

◆活動の概要◆ ～「次世代まで安心して暮らし続けることができるまち」を目指した活動～

新治中部地区では、「地域の子は地域で守る」を合言葉に、地区連合全体で取組む多世代交流イベント『地域ふれあいフェスティバル』、子どもや親世代の防犯・防災力の向上、次世代の人材育成を目指し、小学校・中学校と協力・連携して『防犯・防災キャッチフレーズ』に取り組んでいます。

コロナ感染症拡大により数年間の中止を経て、今年度、3年振りに『地域ふれあいフェスティバル』を再開することができました。

各自治会と学校と連携し『地域ふれあいフェスティバル』、『防犯・防災キャッチフレーズ』に取り組んだ、多世代交流、次世代とのつながりづくりの活動です。

キーワード

地区内の
連携

コロナ禍で
再開・発展

多世代の
つながり

交流の場

新治中部地区の取組紹介



「新治中部地区地域ふれあいフェスティバル」を

3年振りに開催しました!

◆ 活動のきっかけ ◆

「次世代まで安心して暮らし続けられるまちを願い」を大きなテーマに、子どもたちの防犯・防災意識の向上を目的として、24年前より「新治中部地区地域ふれあいフェスティバル」を始めました。

このフェスティバルでは、10年前より「防犯・防災キャッチフレーズ」の表彰式を行っています。

中山・上山・森の台小学校の5年生には「防犯」について、中山中学校の1年生には「防災」についてのキャッチフレーズを募集し、最優秀作と優秀作を表彰しています。



◆ コロナ禍で開催を決めた思い ◆

コロナ禍では表彰式が、各々の教室だったことが寂しく、多くの人前で児童・生徒の表彰をしてあげたいという強い思いから、今年度はフェスティバルの開催を進めました。また、この取り組みは連合としての唯一の活動でもあり、コロナ禍でも地域が一体となる取り組みを行いたいという思いを持ち、人数制限・換気や消毒・座席の間隔を広くする等の対策を考え、開催反対の意見が出ることなく、多くの方々が集まる前で児童・生徒を表彰することが出来ました。

○ 518作品の「防犯・防災キャッチフレーズ」が集まり、最優秀作4作品と優秀作の29作品を表彰。

○ 当日のふれあいフェスティバル参加者は約240名。

今年度、工夫したところ・力を入れて取り組んだこと

① 地域の取り組みなので、自分たちでやろうという気持ちを持った

地域の取り組みとするため、地区連合会や地区社協定例会で話し合いの時間を設け、打合せを重ねながら準備を進めました。必要に応じて区・区社協・ケアプラザに協力を仰ぎました。

② 募集キャッチフレーズに「児童・生徒の作品への想い」を加え、選考方法も変更した

今年度より、作品に込めた「児童・生徒の熱い想い」も合わせて募集しました。児童・生徒の作品への想いを知れたこと、地域に対する想いを知れたことで、児童・生徒と地域とのつながりが生まれました。また、作品選考を防災拠点の自治会ごととしたことで、表彰された作品以外にも、多くの方々に見てもらえる機会となり、ここでも児童・生徒と地域とのつながりが生まれたと思います。

③ フェスティバルを中学校の吹奏楽部の活動発表の場とした

コロナ禍で部活動の発表の場が少なく、学校側より吹奏楽部の演奏を行いたいとご提案いただきました。

演奏でフェスティバルが盛り上がりると同時に、多くの児童・生徒とご家族にもご参加いただきました。

当日の準備や片付けも、児童・生徒と地域とで一緒に協力して行うことが出来ました。



④ 開催して終わりではなく、この取り組みを多くの方へ周知した

フェスティバル参加者全員に、式次第と一緒に「みどりのわ・ささえ愛プラン」の説明チラシを配布しました。また、今年度より最優秀作品を掲載した横断幕を作成し（各校1作品×4校）、各学校に掲示していただいています。

今後、多くの来校者の目に触れ、児童・生徒の防犯・防災意識の更なる向上に繋がることを願っています。各学校には、児童・生徒の名前を伏せた募集作品一覧をお届けし、入賞作品は緑警察署と緑消防署へもお届けしました。この取り組みを地域内に広く伝えたことで、地域との連携がより強くなったと思います。



臼井 孝一 氏（新治中部地区連合自治会 会長）

コロナ禍でもやり方を工夫することで無事に開催が出来ました。食事等がないこと（例年はカレーを食べていた）も不安視していましたが、こんなにも盛り上がったことに感無量です。計画を早くから進めたことで、準備時間にも余裕を持って取り組むことが出来ました。これからも地域での連携を大切にしていきたいです。



古内 敏子 氏（中山自治会 副会長）

地域の役員同士でしっかり議論や準備が出来て、自分たちの手で取り組むことが出来ました。開催後には、参加の保護者の方々より、「素晴らしい内容だった。」と開催に対するお声をいただき、やって良かったなとホッコリしました。今後、地域で活動をしている団体の活動発表を交えるなど、学校と地域との顔の見える関係をさらに築いていきたいです。



三保地区

<地区> 三保町

【活動の概要】 ～地域でのつながりを大切に、活動を活発にしたい～

三保地区では、地域の交流の機会や場を次世代へつなげていけるよう、多世代が交流できる行事や多くのスポーツイベントに各団体が積極的に取り組んでいます。

コロナ感染症の影響で行事やイベントを中止した間も住民同士がつながり交流できるように工夫し、今年3年振りに子どもからお年寄りまで誰もが楽しく参加できるイベント「ソフトバレーボール大会」「三保地区ウォークラリー大会」「こどもフェスタ」を開催しました。

また、身近な小さな単位で実施する防災訓練は、近所の顔の見える関係づくりにつながる大切な取組です。

キーワード

コロナ禍で再開

多世代のつながり

交流の場

防災

三保地区の取組紹介



◆ 3年振りに開催！ソフトバレーボール大会 ◆

●きっかけ

平成4年よりスポーツ推進委員が中心となり、世代間交流のスポーツイベント「自治会対抗9人制バレーボール大会」が始まりました。元実業団の選手など、10代から70代の方が参加し、当日は家族や地域の方などの応援団も会場に集まり、毎年盛況でした。



●地域に根差した取り組み

開催当初会場は、緑スポーツセンターで行っていましたが、三保小学校体育館に変更したことにより、より地域に身近な大会になりました。

会場の広さや参加者の高齢化などにより、以前の9人制バレーボールから4人制ソフトバレーボールに変更しました。

今年度はコロナ禍での大会でもあり参加者が減りましたが、総勢50名の参加があり、5チームの総当たり戦で行いました。久しぶりの大会でみなさん一生懸命身体を動かして、十分な換気で寒い体育館の中でしたが、楽しく元気に大会を行いました。



●よかったこと

- ・会場を三保小学校に移したことで、地域と小学校との交流ができました。
- ・以前からスポーツ活動が盛んに行われていましたが、スポーツを通して年齢差があっても、いろいろな世代と一緒に参加できる活動を検討し、ソフトバレーボールに変更しました。
- ・キックベースボールやグラウンドゴルフなど、子どもから高齢者まで参加できる種目を季節ごとに取り入れて実施しています。

◆ こちらも3年振り！ 三保地区ウォークラリー大会 ◆

参加費無料

●きっかけ

「三保地区に引っ越してきた方、住んでいる方に三保町のことを知って欲しい」という思いがきっかけで、青少年指導員が中心となって「三保地区ウォークラリー大会」が始まり、今年度は29回目として実施しました。三保地区にある「三保地区ならではの名所」をポイントにクイズを出題し、3～4kmのコースのポイントを巡りながら楽しく参加できる多世代交流のイベントです。

●コロナを経て工夫したこと

「地域の皆さんが交流して欲しいという」という役員の思いが再開のきっかけとなり、コロナで2年間中止していたイベントの再開を決めました。当日は200名の方が参加されました。

スポーツ推進委員、各自治会役員、おやじ団が協力してコースの下見、コマ図を作成、最後に実際に歩いて最終確認を行い、毎年コースを決めています。今年は近隣地区の自然豊かな新治市民の森を歩き、「新治里山交流センター」を観察ゾーンに入れコースを作りました。小学生、お年寄り、親子チームもあり、危険箇所には大会役員が立ち、参加者を見守っています。子どもからお年寄りまで参加者の皆が楽しめるよう企画しています。



❖ ウォークラリーの内容 ❖

各ポイントの問題を解きながらコースを巡ります。正解ポイントと隠しタイムのポイントの合計点が最も高かった方が「優勝」です。表彰式では、1位(トロフィ授与)から10位の方へ景品を渡し、参加者には参加賞を差し上げました。



◆ 各自治会で取り組む防災訓練 ◆

20年ほど前から、三保連合としての三保小地域防災拠点での訓練に加え、各自治会で自主的に防災訓練を実施しています。

コロナの影響で中断していた防災訓練を今年開催できたことは、防災の観点からも重要で意義のある活動となりました。小さな単位で実施するので、参加者が積極的に訓練できるのではないかと考えています。

<三保地区の特徴>

傾斜の地形的問題などから、高齢者が地域防災拠点に行き、重いものを自宅及び避難箇所へ運ぶのかという不安があります。防災拠点での食料配布や給水車による飲料配布などの訓練に加えて、自治会などの身近な地域で防災訓練を実施することを通じて、近所の顔の見える関係づくりを進めることは、大切な取組だと考えています。



写真：杉沢自治会から提供

山下地区

<地区>

西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

◆活動の概要◆

～地域全体で「つながり」や「ふれあい」を大切にしながら、誰もが安心して暮らし続けられるまちを目指した活動～

山下地区では、「地域のつながりや支え合いのある 誰もが元気で暮らし続けられる街をめざして」を合言葉に、地域全体で様々な取組を行っています。

「山下地区ネットワークサロン」の取組では、地区内で開催されているサロンのネットワークを作り、自治会等の所属団体などに関係なく、だれもが参加できるサロンが増え、地区の中での住民同士の「つながり」や「ふれあい」を増やすことにもつながっています。

また、ネットワーク化することで、サロンを運営するグループ同士の「つながり」ができ、「交流会」などを通して、コロナ禍での悩みを共有し、相談・協力しながら、サロン活動の継続や再開につなげることもできました。

住民や活動グループ同士のつながりづくりや交流を進め、地区全体で連携してコロナ禍を乗り越えた取組です。

キーワード

地区内の
連携

コロナ禍で
再開・発展

多世代の
つながり

交流の場

見守り・
支え合い

助け合い
ボランティア

山下地区の取組紹介

「地域のつながりや支え合いのある 誰もが元気で暮らし続けられる街をめざして」

🍀 災害時に備えた日頃からの顔の見える関係づくり

地区別計画推進策定委員会にて、災害時に備えた日頃からの自治会と民生委員・児童委員との連携、情報共有について議論を進めました。災害時、支援が必要な住民の安否確認や避難行動支援を地域が一丸となって行うことができるまちづくりを目指して取組を進めます。



また、住民同士の顔の見える関係づくりが進むよう、地区内のサロンや様々な行事・活動に参加できるようにしています。

山下地区ネットワークサロン

◆きっかけ

平成 28 年から住民同士のふれあいと交流の場を広めようとサロンのネットワーク化に取り組んできました。当初は 9 つのサロンでしたが、令和 4 年には 14 か所になりました。



◆工夫していること ～活動を再開、継続するために…～

各サロンの情報交換をしようとネットワークサロン交流会を年 2 回開催し、代表者が集まり、運営に関する情報交換、イベントや講座の講師の紹介、困りごとの相談などを行っています。



一時、サロン全体がコロナ感染症予防のため閉鎖になりましたが、長引いてくると、「行くところがない」「みんなに会いたい」「自治会に関係なく、誰でも参加ができて、毎週開催しているサロンがあったらいい」と言うような声から、「ふらっとホール」が立ち上がりました。



また、あるサロンでは天気の良いときは外でお茶会を行ったところもありました。

コロナの影響で休止している会へは、コロナ感染防止チェックリスト等も作成し、徐々に再開できるよう援助していきます。

「いつもの曜日にいつものところで会う人、いないと気になる関係」を継続して活動していきます。



ささえあいバス



平成 31 年 4 月から地域の運転ボランティアの協力を得て本格運行しています。

住民の買物やサロン、自治会イベントなどに出かける際の交通の便として利用されています。また利用者同士、何気ない会話から顔見知りの場になっています。

新治西部地区

<地区>

新治町・十日市場町・長津田みなみ台6・7丁目の一部

◆活動の概要◆

～子どもから大人まで様々な世代の人が、交流を深め、
顔の見える関係づくりを地域全体で取り組んだ活動～

新治西部地区では、「あいさつを元気に交わそう！笑顔あふれ 集い楽しむ 新治西部」を目指して、様々な取組を進めています。

これまでも、顔の見える関係づくりにつながるように、「ファミリーフェスティバル」などの幅広い世代の人が参加できるイベントを実施してきましたが、コロナ禍になり、開催ができなくなっていました。そのような状況の中、地区の話し合いをきっかけに、地区内の様々な団体が参加する実行委員会を組織し、連携・協力しながら「地区全体の取組」として街歩きのイベントを開催しました。

コロナ禍でも誰もが安心して、楽しく参加できるよう、工夫を一緒に考え、実施したことで団体同士のつながりも強まりました。

地区内の多くの団体が関わり、多くの人に参加できるイベントを開催したことで、地域全体に活力を与え、みんなが前向きな気持ちになれた取組となりました。

キーワード

地区内の
連携

コロナ禍で
再開・発展

多世代の
つながり

交流の場

ICT
活用

新治西部地区の取組紹介

新治西部みんなでわくわく街歩き

活動の内容

- 新治西部連合自治会の町中を舞台にした、スタンプラリーイベントです。
- どなたでも参加でき、家族や身近な人とグループを組んでの参加でした。
- 各自治会館をスタート地点とし、公園や公共施設など15か所にチェックポイントを設け、参加者が行きたいポイントを自分で決めて散策していただきました。



▲新治西部の子供マップ

活動を始めたきっかけ、コロナ禍での開催を決めた思い

- 恒例の親睦イベントが相次ぎ中止となる中、子どもたちにこの町がどのように見えているかを町の人に知ってもらうために「子供マップ」を作成しました。
- マップを活かし、3密が避けられ、子供たちの生活の場を保護者やまちの人と一緒に交流しながら散策してほしいとの思いからイベントを発案しました。

活動を行う上で、心がけていること、工夫したこと

- 参加者もスタッフもみんなが楽しく過ごせるイベントであることを心掛けました。
- 実行委員会を設け、2回の委員会の中で、予想される問題への対応策を共有しました。
- 交差点にスタッフを配置、参加者に番号付きリストバンドをつけてもらい、ポイントを通過するごとに参加者全員の安全確認を実施しました。

実施してみた感想、参加された方の様子、今後の活動について感じている事

- 事故もなく、無事に開催出来て良かったです。
- それぞれのポイントでいろいろな催しがあり、参加者もスタッフも楽しめました！
- 青少年指導員、スポーツ推進委員、子供会、老人会、保健活動推進員、安全協会、消防団、家庭防災員、婦人防犯、自治会役員など多くの団体が協力出来たので開催できました。
- 今後も新しいアイデアや技術を取り込み、新鮮で魅力的なイベントを継続して行っていきます。

【当日の様子】



十日市場団地地区

<地区> 十日市場町(十日市場団地地区)

◆活動の概要◆

～「助け合い」を合言葉に、「つながり」を大切にしながら
「住んで良かった」「住み続けたい」まちを目指した取組～

十日市場団地地区では、「誰もが『住んで良かった』『住み続けたい』まち十日市場」をスローガンに、さまざまな取組を進めています。

今回紹介する、「一斉清掃」は「自分たちのまちは自分たちでよくしよう」という、地域の住む方々の自発的な活動です。定期的を実施することで集まる機会が増え、そこから自然と交流が生まれ、ゆるやかな見守りにもつながっています。また「もったいない」～「ありがとう」では、品物を提供する人が、同時に譲り受けることもでき、「支援する人・される人」を分けることなく、「お互いさま」の支え合いが実現できるように取組を進めています。

いずれの活動も、コロナ禍でもできるように工夫し、「助け合い」を合言葉に、住民同士のつながりを大切にしながら進めています。

キーワード

地区内の
連携

交流の場

見守り・
支え合い

十日市場団地地区の取組

一斉清掃

活動内容

- 住民のみなさまと一緒に、住みやすく・明るく・清潔な街区を目指して、街区敷地内の清掃を行っています。

活動を始めたきっかけ

- 住民の絆を深め、助け合いの精神を育むことに加え、高齢者の安否確認の意味でも必要と考え、自治会発足時より活動しています。

活動を行う上で、心がけていること、工夫していること

- 参加者にはお茶を配付して、「参加してくれてありがとう」の気持ちを伝えています。

十日市場団地地区では、自治会ごとに一斉清掃を行っていますが今回は代表して第9自治会にお話を伺いました。



活動を行ってみての感想、今後の活動についての思い

- 住民の年齢が高くなり、体力的に参加することが難しい人が多くなっています。それに伴い、役員の担い手もおらず、苦勞しています。今後は自治会全体で話し合い、アイディアを出しあって活性を図る必要があると考えています。



「もったいない」～「ありがとう」

活動内容

- 地域の方の「使わないけど捨てるのはもったいない物」や、食品、日用雑貨等を必要としている方々に譲り合う会です。



活動を始めたきっかけ

- コロナ禍で今まで行っていた行事が中止になってしまいましたが、そんな中でも“できること”を考えました。ご家庭で不必要なものを集めていただき、必要としている方に譲ることで、団地内で助け合うことが出来たらと思い、令和3年度から活動しはじめました。

活動を行う上で、心がけていること、工夫していること

- ただ物や食品を集めて譲るのではなく、来てくれた方々に生活する中でご不便に思うことや、悩みをお聞きしています。また、地域での情報を住民の方々にお伝えしています。

活動を行ってみての感想、今後の活動についての思い

- 今回で3回目になりますが、少しずつ周知されてきたように思います。参加される方の年代が高齢の方たち中心なので、今後は年代問わず幅広く広報し、若い年代の方々にもぜひ利用して欲しいと思います。



霧が丘地区

<地区> 霧が丘1～6丁目

◆活動の概要◆ ～「次世代まで安心して暮らし続けることができるまち」を目指した活動～

霧が丘地区では、『「安心・安全・健康」のまちづくり』を目指し、平成20年から保健活動推進員が中心となり、健康への意識向上のために月1回「健康チェックの日」を開催しています。盆踊りや運動会などの連合の諸行事の時には、安全に目を配る救護担当としても活躍されています。

また、「活動できる機会・場を通してつながりを大切にするまちづくり」に向け、霧が丘会食会が、以前から取り組んでいた「会食会」を継続し、「交流・活動できる場・つながりづくり」の活動に取り組んでいます。コロナ禍で半年間活動できない時期もありましたが、活動者の「つながりを保ち続けたい」という気持ちから、「つながり」を絶やさないために様々な手法を取り入れ、活動を行っています。

キーワード

コロナ禍で
再開・発展

活動できる
機会

交流の場

健康づくり



霧が丘地区の取組紹介

霧が丘地域ケアプラザを会場に実施している地域の活動の一部を紹介します！

霧が丘健康チェックの日

○活動内容・活動のきっかけ

住民の健康への意識向上や、自分の健康状態を簡易的に知るための活動で、毎月第3水曜日に行っています。

地域ケアプラザができた時、「地域の健康、霧が丘の健康を守りたい！守り続けたい！」との想いと地域を盛り上げようという気持ちから、連合自治会・保健活動推進員・地域ケアプラザの3者で始まりました。より多くの人に周知するため、連合自治会の協力で全戸にチラシを配布しています。



☆コロナ禍での思いや心掛けていること

『健康チェックの日』は自分たちの交流の場にもなり、気になる方の見守りの場にもなっています。コロナウイルスの影響で『健康チェックの日』ができない間、地域の方に会えなくなり心配になりました。

久しぶりに開催できた時にはほっとすると同時にとても嬉しく思いました。

『健康チェックの日』を再開するにあたり、マスクやフェイスシールドの着用、計測内容を限定するなど、お互いに感染しない・させない工夫をしました。さらに、予約制にすることで、密を避け、安心して来ていただけるような心掛けをしています。人数が制限され寂しく思いましたが、参加された方とじっくりとかかわるようになりました。そのこともあり、名前まではわからなくても顔見知りになり、地域内でお会いした時に挨拶し合える関係ができました。

(霧が丘地区保健活動推進委員会 谷岸会長)



霧が丘会食会

○活動内容、活動を始めたきっかけ

会食会は地域の高齢者が会食をしながら交流する場を提供しています。毎月第3木曜日(2月・7月・8月除く)に行っています。

会食会は40年以上前から始まった活動です。当時の民生委員の方たちが始めたと聞いています。3つの老人クラブの方たちに順番に来ていただいていたいました。そのころは今のケアプラザのように集まる場所がなく、霧が丘デポの2階をお借りし、行っていました。



☆コロナ禍での思いや心掛けていること

再開をしようと思った理由は、約6か月活動ができず、会員の皆さんがお元気なのか心配だったことと、つながりを保ち続けたいと思ったからです。しかし、その時はまだ集まることはためらわれ、お手紙とお食事を届けようということになりました。訪問すると、とても喜んでくれたことが印象的でした。その後、ケアプラザの定員人数が緩和されたことをきっかけに、ケアプラザを会場にお楽しみ会だけでも実施することにしました。お食事はありませんが、余興披露のボランティアに来てもらうなどコロナ前と同じ内容にしました。皆さんとても楽しみにしてくれています。

早く会員の皆さんと一緒に食事を楽しめるようになりたいと思っています。

(霧が丘地区社会福祉協議会 成瀬会長)

長津田地区

<地区>

長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野、
長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

～話し合いの「場」や「機会」を増やし、様々な団体が協力しながら、
「ともに支え合うまちづくり」を目指した取組～

長津田地区では、自治連合会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会が三位一体となって取り組む体制が根付いており、「向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会」（以下、「運営委員会」）は、平成23年の発足以来、「誰もが安心・安全に暮らせる『福祉の街長津田』」を目指し、高齢者福祉を中心とした取り組みを行ってきました。

「運営委員会」は、長津田地区別推進委員会での議論をより具体的にしていくため、必要な検討を進める場として位置づけ、見守りや認知症についての取り組みを事業者と連携しながら展開してきました。

令和元年度からは、「運営委員会」を様々な団体のメンバーで構成し、「高齢者福祉部会」、「こども・子育て部会」、「長津田ささえあいネット」の3つの部会を設置し、高齢者に限らず、幅広く対象を捉えて検討を行っています。

キーワード

地区内の
連携

見守り・
支え合い

推進組織

長津田地区の取組紹介

地区別計画策定推進委員会

活動内容

第1回：多世代交流、第2回：若い世代の活躍・活動の場づくりをテーマに話し合い、次年度に向けて検討しました。



▲委員会の皆さん



▲Aグループ



▲Bグループ



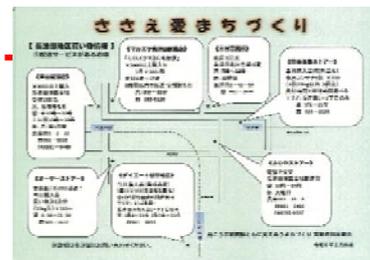
向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会

活動内容

今年度は、特に各部会で地域の情報を整理し、広報紙を更新したことで、地区別計画の重点項目にもなっている、「情報の受発信・伝達の工夫」についての取組が進みました。

高齢者福祉部会

- ・ 高齢者の外出支援、買い物支援のための買い物情報紙の作成
- ・ 広報紙作成に向けた検討



ささえあいネット部会

- ・ 新聞販売店、介護保険事業所等、地域の事業者と協力し見守りネットワーク構築のための意見交換会の実施
- ・ 新たな協力事業者の拡充
- ・ ささえあいネットニュースの発行

こども・子育て部会

- ・ 自治会の枠を超えた子育て支援活動の検討
- ・ 子育て世帯への、ニーズ調査の検討
- ・ 長津田地区子育て情報紙の作成・周知



手と手を取り合う食支援

活動内容

長津田地区社会福祉協議会と長津田地域ケアプラザ共催で通算6回目となる食支援を実施しました。

仕分け作業や運搬、お渡し会等、一緒に活動できるボランティアさんを募集しています！



第3章 区域計画

●「区域計画」の推進について

(1) 区域計画とは

区域計画は、地区別計画と連携して、各地区が共通で抱える課題の解決や地区の先駆的な取組事例の拡充を目指します。

区域計画 重点項目とその取組内容

重点項目 A 地区別計画を支える取組

各地区共通の課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

地域活動の担い手の確保・育成のため、関係機関と連携した講座や研修、交流会等を通じて、ボランティアの交流や地域活動につながるコーディネートが進められるよう、必要な支援等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1

A-2 地域活動団体の運営支援

地域活動の立上げや運営にあたって必要な支援制度や好事例等について情報提供を行うとともに、地域活動団体の交流を促進し、団体間のネットワークの構築・強化に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

地域で身近につながる機会・場づくりのため、地域活動が継続的に行われるよう支援するとともに、活動・交流の場としての地域資源の発掘等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-4 地域活動の情報伝達の工夫

地域活動に関する情報を効果的に広く届けられるよう、情報伝達手法の工夫について学ぶことのできる機会を設けるとともに、区・区社協・地域ケアプラザのほか、関係機関や企業等の様々な広報媒体を活用した情報発信を進めるなど支援をします。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-5 地域における見守り体制の充実

身近な地域で住民同士の顔の見える関係づくりが進められるよう、日頃の地域活動や講座等を通じた見守り意識の醸成を進めます。また、地域と商店等の事業者が連携して、見守りの体制が充実するよう、取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

地域活動を進める上で抱える課題の解決に向けて、社会福祉法人やNPO法人等の地域の事業者と連携・協働して、地域活動団体を支援します。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

重点項目 B 区域全体での取組

区域で取り組むべき課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

B-1 データを活用した 施策推進



客観的なデータ等を活用した地域アセスメントを進め、地域とともに課題共有を行いながら、必要な施策や取組の検討、実施につなげていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-2 課題解決に取り組む 推進体制づくり



専門機関が地域活動団体と連携し、区域の課題の解決に取り組むことができるよう、専門機関が参加する会議や地域活動団体の研修等の機会を活用し、ネットワーク強化に向けた取組を実施します。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-3 様々な背景を越えた 住民相互理解の風土づくり



疾病や障害など様々な背景を越えて、地域住民がお互いを尊重し支え合えるよう、多様性の理解を深めるための取組や、当事者及びその家族同士の交流に係る取組への支援を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-4 身近な地域で 支援が届く仕組みづくり



支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、支援機関の役割・機能を周知するとともに、必要な時に支援機関につながり、相談等ができる機会を得られるよう、仕組みづくりや取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2

B-5 多様な主体と連携・ 協働した施策展開



区域の課題解決に向けて、企業や大学等と連携・協働することにより、それぞれの強みを生かしながら、区域の課題やニーズに対する取組を進めていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

推進の視点 についてくわしい
ことは、4ページにのっています。

ちぶくちゃん

誰もが安心して、自分らしく健やかに
暮らせる「よこはま」をみんなで
つくるため、まちの中を歩いて、
人々を見守っています。

横浜地域福祉保健計画の
キャラクター



第4期の区域計画は、「各地区共通の課題解決のための重点項目（重点項目 A）」と「区域の課題解決のための重点項目（重点項目 B）」の大きく2つの項目で構成しています。従来の地区別の取組だけでは表面化しない個別課題の把握や解決に向けた取組を進めるとともに、重層的な地域課題を解決する仕組みづくりを引き続き進めていきます。

●各重点項目の振り返り



A-1 担い手

ア. 重点項目A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

- ボランティア募集や活動支援のための研修会を開催
- 広報紙でのボランティア募集案内、活動の場を提供するなど、**地域活動につながるようコーディネート**を実施
- 新たなボランティア発掘に向け、様々な世代を対象にした講座を実施（シニアボランティア登録研修、YouTuber 養成講座など）



▲研修会の様子



A-2 運営支援

イ. 重点項目A-2 地域活動団体の運営支援

- デジタルディバイド解消に向け、**ICTを活用したつながりづくり**、地域活動での活かし方などを学ぶ講座および講演会を開催
- 活動団体同士の交流の場の提供やコロナ禍で活動が停滞している団体への**コロナ禍でもできる活動の紹介**などの活動支援
- キャラバン・メイトの活動充実に向け、「キャラバン・メイトのつどい」を開催（内容：認知症当事者の講話、キャラバン・メイト同士の情報共有など）
- 活動団体向けに、活動に必要な知識を深めるための研修会を実施。（内容：ボランティア活動に必要な「事故対応」の知識や「障害理解」などについて）



A-3 機会・場

ウ. 重点項目A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

- 散歩の途中で気軽に立ち寄り、ゆるやかにつながり合える昔の縁側のような場所であるお散歩カフェの立ち上げ・運営支援
- 居場所づくりに係る助成金申請支援
- **元気づくりステーション**への支援



お散歩カフェの様子 ▶



▲元気づくりステーションの様子▲

工. 重点項目A-4 地域活動の情報伝達の工夫
重点項目B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり



A-4 情報



B-4 支援が届く

- 各機関の広報媒体として、ICTを活用した情報発信の工夫
*ブログやTwitter等を活用した、きめこまやかな地域活動情報発信



▲携帯電話会社と連携したスマホ講座

- 携帯会社等と連携したスマホ講座の開催

●情報を入手しやすい環境づくり

- ・企業等との連携による広報紙の配布
- ・地域情報紙を活用した情報発信など

(協力団体等：民間企業、商業施設、商店会、金融機関、医療機関、薬局、住宅管理事務所など)



▲協力企業等の窓口に広報誌設置

- ケアマネジャー向けの「ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ」活用研修開催及び操作方法に関するチラシ配布



オ. 重点項目A-5 地域の見守り体制の充実
重点項目B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり



A-5 見守り



B-4 支援が届く

- 参加者が認知症への理解を深めたり、「見守り」の必要性を伝える「認知症サポーター養成講座」、「地域ケア会議」の開催
*地域での「ゆるやかな見守り」の体制づくりについて検討・支援

- 支援が必要な人が相談につながるための、事業所と連携した情報提供
*相談機関に関するポスター掲示、チラシ配架
(協力事業所：地元商店や金融機関、新聞店、住宅の管理事務所など)

- 事業者向けにスマホ相談会、ガイドツアー講座、認知症サポーター養成講座などを開催
(対象事業者：NPO法人、介護事業者所、金融機関、商店会など)



▲大学生によるスマホ相談会

- フードドライブやサニタリードライブなどを通じた身近なところでの支え合い意識の醸成

- 災害に備えた顔の見える関係づくりの取組支援
*新たに5自治会へ「災害時要援護者名簿」を提供
*今後は、引き続き名簿を活用した日頃の見守り活動への取組支援

力. 重点項目A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援
重点項目B-5 多様な主体と連携・協働した施策展開



A-6 連携による支援



B-5 協働による推進

- 地域の事業所と協働して、地区内のAED設置場所を載せたマップを作成
- NPO法人と連携したICT活用に関する講座を開催、相談コーナーの設置
- 新聞販売店や配食サービス事業所などをメンバーに加え、「見守り」をテーマに地域ケア会議を開催
- 地区内の様々な施設や事業者などと「施設間連携会議」を実施、協働でイベントを開催



B-1 データ活用

キ. 重点項目B-1 データを活用した施策推進

- 区や子育て支援拠点の取組検討の参考となるよう、乳幼児のいる子育て家庭を対象にアンケートを実施
- 地域課題の把握・分析に生かせるようなデータをまとめた「暮らしのデータ集」を更新作成



B-2 ネットワーク

ク. 重点項目B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり

- 子育て支援に関わる関係機関や支援者が参加する「子育て支援連絡会」や「子育て支援交流会」、要保護児童対策地域協議会を通じて、子育て世帯や地域活動の現状・課題を共有するなど、支援者同士の連携強化
- 相談支援機関などの様々な機関が参加する「セーフティネット会議」の開催
(内容：生活困窮に係る対応事例をもとに、各機関の強み、連携支援の重要性について学ぶ)
- NPO法人、生活支援センター、基幹相談支援センター、在宅医療相談室、介護保険事業所などの多様な機関との連携、ネットワークづくり
(研修会の開催、情報共有の場づくり)
- 基幹相談支援センター、精神障害者生活支援センター及び区との3機関カンファレンスにおいて地域課題の共有や支援方針の検討(毎月開催)
- 地域自立支援協議会(代表者会、6部会、研修等)における課題共有、人材育成



ケ. 重点項目B-3 様々な背景を越えた住民相互理解の風土づくり

B-3 相互理解

- 外国人向けの防災講座ややさしい日本語教室を開催
- 認知症サポーター養成講座の実施
- 基幹相談支援センター等と連携した障害者やその親の居場所づくり
- 障害者週間における様々な取組



◀障害者週間イベント
「みんな もっと いっしょに
たのしもう! み・ど・り!」



コ. 重点項目A全般 地区別計画を支える取組

- 一人ひとりの困りごとを身近な地域で解決につなげるため、各地区社協における話し合いの機会づくり
- 地区社会福祉協議会分科会で、「地区社協とは」研修を実施
(内容：困りごとを解決するための地区社協の役割等について)
- 各地区社会福祉協議会の定例会や各種事業において、「地域活動や地域住民の生活の中で気になることはないか」等の意見交換、住民同士の見守りについての意識啓発

●参考指標について

「第4期みどりのわ・ささえ愛プラン」では、それぞれの重点項目の進捗状況をはかるために指標を設定し、年度ごとの振り返りの際に活用しています。

重点項目 A 地区別計画を支える取組

重点項目 A-1：地域活動の担い手・人材の確保及び育成

〈参考指標〉

ボランティア活動登録数 642 件（令和5年3月末）

重点項目 A-2：地域活動団体の運営支援

〈参考指標〉

「活動・交流の場」の新規開設支援件数 21 件（令和5年3月末）

事例の周知・・・「地区別計画推進策定委員会連絡会」の中で、各地区からの発表時間を設け、好事例を共有する場としました。

重点項目 A-3：地域の活動及び交流の機会・場づくり

〈参考指標〉

住民主体の活動・交流の場の把握数 649 件（令和5年3月末）

重点項目 A-4：地域活動の情報伝達の工夫

〈参考指標〉

地域情報発信の仕組みづくり・・・区内の多くの機関や施設で、これまでの媒体に加え、SNS（Twitter、Instagram など）を活用することで、地域活動の情報を発信することができました。

重点項目 A-5：地域における見守り体制の充実

〈参考指標〉

見守りに関する地域住民との会議開催回数 267 件（令和5年3月末）

重点項目 A-6：多様な主体と連携・協働した地域活動支援

〈参考指標〉

多様な主体と連携した地域活動支援件数 65 件（令和5年3月末）



重点項目 B 区域全体での取組

重点項目 B-1：データを活用した施策推進

〈参考指標〉

データ活用会議実施回数 114 件（令和5年3月末）

重点項目 B-2：課題解決に取り組む推進体制づくり

〈参考指標〉

ネットワーク構築に資する会議等開催回数 116 件（令和5年3月末）

重点項目 B-3：様々な背景を越えた住民相互理解の風土づくり

〈参考指標〉

多様性理解・啓発の取組実施回数 77 件（令和5年3月末）

重点項目 B-4：身近な地域で支援が届く仕組みづくり

〈参考指標〉

成年後見制度に係る相談支援件数 145 件（令和5年3月末）

生活困窮者自立支援に係る相談しやすい体制や風土づくりの取組……

今年度も、継続して、支援機関が集まる区レベルのセーフティネット会議を2回開催（第1回51名、第2回59名出席）し、支援機関の連携やネットワークの強化を図りました。

重点項目 B-5：多様な主体と連携・協働した施策展開

〈参考指標〉

事業展開事例……企業（村田製作所、無印良品）、横浜銀行、大学、警察署と連携・協働して子どものまちづくりイベントを実施しました。



緑区内の地域ケアプラザ

誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域をつかっていくための拠点として、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービスを身近な場所で総合的に提供する施設です。

★東本郷地域ケアプラザ

〒226-0002 東本郷5-5-6
☎045-471-0661 FAX045-471-0678



アクセス

JR鴨居駅からバスで。「東本郷地域ケアプラザ前」「東本郷町」「泉谷寺団地前」バス停下車。

★鴨居地域ケアプラザ

〒226-0003 鴨居5-29-8
☎045-930-1122 FAX045-931-2203



アクセス

JR鴨居駅から
・バスで。
「鴨居町バス停」下車。
・徒歩で約10分

★中山地域ケアプラザ

〒226-0019 中山2-1-1 (ハーモニーみどり内)
☎045-935-5694 FAX045-935-5695



アクセス

中山駅（JR・市営地下鉄）から徒歩7分

★山下地域ケアプラザ

〒226-0021 北八朔町218-13
☎045-931-6275 FAX045-935-3883

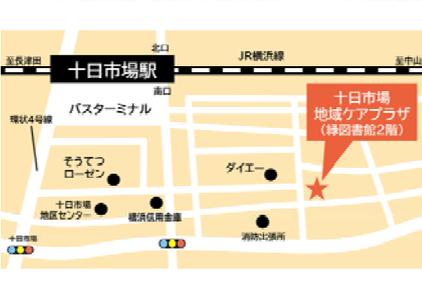


アクセス

・中山駅（JR・市営地下鉄）からバスで。「寒谷戸」バス停下車。
・市営地下鉄川和町駅から徒歩20分

★十日市場地域ケアプラザ

〒226-0025 十日市場町825-1
☎045-985-6321 FAX045-985-6325



アクセス

JR十日市場駅から徒歩3分

★霧が丘地域ケアプラザ

〒226-0016 霧が丘3-23
☎045-920-0666 FAX045-922-6611



アクセス

JR十日市場駅からバスで。「中丸入口」「萱場公園入口」バス停下車。

★長津田地域ケアプラザ

〒226-0027 長津田2-11-2
☎045-981-7755 FAX045-981-7575



アクセス

長津田駅（JR・東急）北口から徒歩5分



<編集・発行>

横浜市緑区役所 福祉保健課 事業企画担当

〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118

電話 045-930-2304 F A X 045-930-2355

電子メール md-fukuhoplan@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会

〒226-0019 横浜市緑区中山 2-1-1 (ハーモニーみどり内)

電話 045-931-2478 F A X 045-934-4355

電子メール midori00@yokohamashakyo.jp



プランの詳細は、ホームページをご覧ください。

第4期 緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」
 令和4年度 推進状況報告書
 <2023（令和5）年6月発行>

みどりのわ・ささえ愛プラン
 みどりのわ・ささえ愛プラン
 みどりのわ・ささえ愛プラン